



## 令和3年度(第10回)定時総会 & 第23回「信州エコ大賞」表彰式

令和3年度定時総会が10月15日(金)に長野市のホテル国際21で開催されました。今回も環境講演会と懇親会は中止、会員の皆様にはできる限り「委任状・議決権行使書」のご提出をお願いして執り行いました。

決議事項の「令和2年度事業報告・収支決算」、役員選任についてはいずれも原案どおり承認され、「令和3年度事業計画・収支予算」について報告しました。



総会の冒頭、茅野實・初代会長を悼んで黙祷。

### ❖ 山浦愛幸会長挨拶(抜粋)

IPCC 第6次評価報告書で、今の地球温暖化は「人間のせい」と初めて断定されました。ノーベル物理学賞を受賞したのは「気候モデル」をつくった真鍋さん。気温上昇を2℃、できれば1.5℃に抑えるため、2050年までにカーボンニュートラルが世界の命題といえます。当協会もそれに向け、活動していかなければいけません。日本で今検討されている「エネルギー基本計画」、原発なしでカーボンニュートラルは実現できるか、ウォッチしていかなければと思います。

### ❖ 県環境部長 猿田吉秀様ご挨拶(抜粋)

今年6月、「長野県脱炭素社会づくり条例」に基づき、「長野県ゼロカーボン戦略」を策定しました。社会変革・経済発展と共に実現する持続可能な脱炭素社会づくりを目指し、2010年度

比で2030年度までに温室効果ガスを6割削減するという、他の自治体や国と比べてもかなり高い目標を掲げています。目標実現のために、県内の事業者の皆様や県民の皆様と一緒に行動していくことが大事だと思っています。

### ❖ 八十二銀行副頭取 浅井隆彦様ご挨拶(抜粋)

地球温暖化防止の取り組みは、かつての“低炭素”から“脱炭素”への動きが鮮明で、企業もこれまで以上に意識を変えて温室効果ガス削減に取り組んでいく必要があると考えています。当行も4月に中期経営目標をつくり、2030年度に温室効果ガス排出量を60%削減するという野心的な目標を立て、今取り組んでいます。茅野實さんが協会を設立した時の願いを、私たちが一丸となって必ず実践していくことを誓います。

## 追悼 茅野實さんを偲んで 山浦 愛幸

茅野さんどうされたの。

いつも宴席では「俺は死なねえぞ。死んでたまるか。」と気炎を上げていたのに、だから不死身の茅野さんと信じていました。お宅のお部屋に静かに眠っておられたそのお顔

は、本当に安らかでこの上ない、いいお顔をなさっていました。

「死んでたまるか」なぜそう言ったのか不明のまま今になっているけれど、「地球環境の劣化になんかに負けないぞ」「これ以上の環境の悪化は許さないぞ」という意気込みを力強くアピールしていたのではないかと、思えてなりません。

50歳ぐらいの時から急に、環境問題に傾倒していかれたように思います。銀行の頭取専用車はベンツから発売されたばかりのプリウスに変え、本店ビル内の電灯を消し、拳句 ISO14001 を取得するよう指示を出された。茅野さんの環境問題への取り組みは筋金入りだ。

この意志をどこまでも引き継いでいかねばならないと改めて再認識しています。茅野さんありがたう。——合掌



協会創立20周年記念パーティーにて

\*4~5頁に追悼特集を組みましたのでご覧ください。

## 第 23 回「信州エコ大賞」表彰式

総会に引き続き、「信州エコ大賞」の表彰式が執り行われました。今回は 4 支部から 6 件の推薦があり、審査の結果、〈団体・個人の部〉の大賞には「浅間山系ミヤマシロチョウの会」、「ふれあいフリーマーケット実行委員会」、奨励賞に「ブッポウソウの里の会」、〈企業の部〉の企業賞には「KOA 株式会社」が受賞されました。おめでとうございます。



写真左より) 浅間山系ミヤマシロチョウの会会長 花岡敏道様、ふれあいフリーマーケット実行委員長 田中千穂様、山浦会長、ブッポウソウの里の会会長 伊佐榮豊様、KOA 株式会社 取締役 向山浩正様

### 〔団体・個人の部〕大賞 浅間山系ミヤマシロチョウの会 (東御市)

「浅間山系ミヤマシロチョウの会」は、県希少野生動植物保護条例の特別指定種であるミヤマシロチョウの保護団体として 2010 年に設立されました。

他の棲息地域での絶滅が急激に進むなか、地元・湯の丸高原の高山域での保護パトロールや越冬巣モニタリング調査活動を主体的に継続し、ミヤマシロチョウを保護してきました。とりわけモニタリ



テガタドリで吸蜜する  
ミヤマシロチョウ (♂)  
2017.7.11

ング調査記録については学術的にも意義深く、昨年東御市で開催された「全国チョウ類保全シンポジウム」でもこれまでの活動の成果が詳しく報告されました。

こうした活動に対し、地元企業からも活動資金面での協力を得られています。また、地元小学校における環境学習への支援を行うなど、地域への貢献度も高く評価されています。



越冬巣調査 2008.11.29



観察会 2013.7.21



現地飼育 2020.7.20

### 〔団体・個人の部〕大賞 ふれあいフリーマーケット実行委員会 (宮田村)

「できることからエコ活動」を合言葉に村内女性有志 5 名によるフリーマーケットの実行委員会から始まった活動が 8 年目を迎えています。フリーマーケットは 100 区画に及ぶ出店規模で、行政や多くのボランティアの協力を得て開催されています。

また、活動はフリーマーケットだけにとどまらず、アサガオを利用したグリーンカーテンの推進、廃油石鹼の製造配布、インクカートリッジ回収、米袋バッグ

の作成、エコ工作講座の開催等、多種多様な拡がりを見せ、地域コミュニティの育成や地域おこしにも繋がっています。

保育園児から若い親世代・お年寄りまでの幅広い層を巻き込み、生活に根差した活動になっていて、その情熱と行動力は素晴らしいものがあります。

令和 3 年度 循環型社会形成推進功労者知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。



第 12 回ふれあいフリーマーケット  
@宮田村総合公園 2019.11.9



アサガオの種まきをした園児たちが描いたカード付きポット



持ち手に古ジーンズを使った米袋バッグ「RISACK」



実行委員会  
創設メンバー

## 〔団体・個人の部〕奨励賞 ブッポウソウの里の会 (中川村)

「ブッポウソウの里の会」は2003年からの有志 3 名による活動を引き継ぐ形で、2014年に発足しました。「絶滅危惧種に指定されているブッポウソウの棲息する豊かで、美しい自然環境を育む活動を推し進め、次世代にこれを継承する」ことを目的としています。



毎年、巣箱の作成(写真左下)・設置・取り外しや、見守り活動を行っています。また、JR 東海によるリニア関連工事において、ブッポウソウの営巣が確認できなくなったとして、工事の中断を要請するなど、適時適切な保護の推進にも努めています。

さらに、小学生対象の観察会(写真右上)の開催、写真展の開催など地域を巻き込んだ活動も行っています。

## 〔企業の部〕企業賞 KOA 株式会社 (箕輪町)

1940年創業時の理念「伊那谷に太陽を」という夢をかなえるべく、企業経営の価値観を「循環・有限・調和・豊かさ」に置き、「地球あっての人類、人あっての経営」というコンセプトの具現化に向けた取り組みを続けています。

1997年に立ち上げた環境マネジメントシステム「おてんとうさま」(写真左下)、排出物の削減、省エネ活動、近年のSDGsへの積極的な取り組みなど、

長期にわたる活動の深化と拡がりには特筆に値するものがあります。

さらに、伊那谷の「風土・風景・風格」を大切に守り伝えていく『三風の会』(写真右下)を、産官学民共同運営するなど、地域社会との信頼関係の構築も図られています。

2021年度一般社団法人日本緑化センター会長賞を受賞されました。おめでとうございます。



内部監査 (ISO14001) で液体流出防止の防液堤を確認



「第26回天竜川水系環境ピクニック」  
2019.5.18 河川敷のゴミ拾いに参加



伊那谷風土記街道の看板のデザインを統一

# 「信スマ」へのご参加ありがとうございました!

長野県センターは、県などと共催で、9月17日から9月30日までの2週間、「信州スマートムーブ通勤ウィーク」を実施しました。結果は次のとおりです。

- 参加事業所数 177 事業所 (1/4 が初参加)
- のべ参加者数 37,671 人 (ノーマイカー-7,511 人 エコドライブ 30,160 人)
- CO<sub>2</sub>削減量 67.7t-CO<sub>2</sub> (約 6,200 世帯の 1 日あたりの排出量に相当)

鉄道むすめ

株式会社トミーテックが展開する、全国の鉄道事業者の制服を着たキャラクターです

しなの鉄道 鉄道むすめ  
上田れむ  
© TOMYTEC/イラスト:長谷川こ



上田電鉄 鉄道むすめ  
八木沢まい  
© TOMYTEC/イラスト:みぶなつき

上高地線イメージキャラクター  
刈東 なぎさ  
©2012 アルピコ交通 イラスト:堀



長野県 PR  
キャラクター  
アルクマ  
©長野県アルクマ



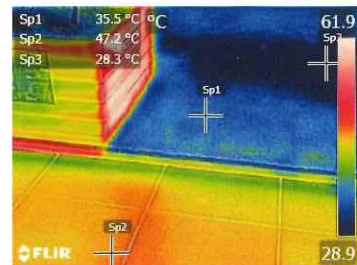
# ● ゼロカーボンさみっと 2021

長野市内で7月から10月にかけて、ゼロカーボンやグリーンインフラのムーブメントを発信する目的で「ゼロカーボンさみっと 2021」が開催されました。期間中の3つのイベントの最初として、長野駅善光寺口駅前広場の舗装面上に約6.5m四方の芝生スペースを設け、都市空間に設置された芝生や植栽でヒートアイランド現象を緩和する効果を体験できる「グリーンインフラ体験」が7月17日から23日間にわたって行われました。

グリーンインフラとは、自然環境の持つ多様な機能を、防災、減災、環境保全等の様々な問題の解決に活用しようとする考え方ですが、ヒートアイランドや雨水処理等の対策を対象とした、都市域の屋上緑化や雨水浸透舗装なども加えられ、県下の自治体が「まちなかグリーンインフラ」として導入を図っています。

イベントの中では、舗装面と芝生の表面温度の差を当てるクイズが実施され、107名の応募が寄せられました。測定は長野市センターがサーモカメラで撮影し(写真)、晴れた日の温度差の平均値12℃を正解としました。

\*グリーンインフラの詳細は「ゼロカーボン長野プログラム」のホームページへ→



## ゼロカーボンナビゲーター養成講座

長野県センターは9月29日、ゼロカーボンナビゲーター養成講座 第1回「ゼロからわかる気候変動」をオンラインで開き、気候変動をはじめ脱炭素化に向けた課題と取組について学びました。

講座は全4回のオンライン連続講座のほか、デジタル地球儀「触れる地球」体験講座も企画。受講者は製造業など企業が主で計40人超。脱炭素社会づくりを担い、地球温暖化防止活動推進員となりうる、ゼロカーボン実践のナビゲーターを養成することが目的です。



講座では、信州大学名誉教授の高木直樹氏(写真左)が「長野・日本の気候変動と世界的な対策について」を演題に講義。続いて長野県環境部環境政策課ゼロカーボン推進室長の柳原健氏(写真右)が「2050 ゼロカーボンに向けて～長野県の脱炭素化に向けた課題と取組～」と題し、解説しました。



第2回は10月28日(木)、「省エネ・再エネ」をテーマに実施しました。

第3回は12月18日(土)13時～、テレビ信州・気象キャスターの鈴木智恵氏が「気候変動と防災」をテーマに講義します。オープン講座とし、一般の方先着30名募集中!お問い合わせは県センターへ。

### 2050 ゼロカーボンの実現に向けて 省エネで信州を暖かく



### 信州 冬の省エネ キャンペーン(12～2月)!

県センターHPにキャンペーンの特設ページをつくります。  
SNSでもお役立ち情報を発信、ラジオCMも放送予定。



#### 新会員紹介

特定非営利活動法人 長野県 NPO センター 一般会員 北信支部

【発行元】 〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

□「エコシン」は「エコ信州」の略称です

2021年11月1日発行

●一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp http://nace.main.jp/

●長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp http://www.dia.janis.or.jp/~nccca/

●長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp http://www.eco-mame.net/

